

# 事業報告書

(No. 8)

|                 |   |     |
|-----------------|---|-----|
| 1 支援団体名         | NPO法人 技術交流フォーラム   |     |
| 2 事業名称          | 巨勢川調整池利活用懇談会及びイベント開催(水質調査「身近な水環境の一斉調査」)   |     |
| 3 実施日時          | 平成19年6月3日(日)  |     |
| 4 実施場所          | 巨勢川調整池及び周辺の河川   |     |
| 5 事業目的、内容及びその効果 | <p>(事業実施状況・内容)</p> <p>「身近な水環境の一斉調査」は全国を対象に2004年に開始され、佐賀県でも各地の子供クラブや多くの市民団体等が参加してきた。当懇談会及びNPO法人技術交流フォーラムも2006年より巨勢川調整池及びその周辺の河川の水質にどのような変化があるのか興味を持ち参加することになった。</p> <p>今年度は平成19年6月3日の日曜日に開催した。巨勢川調整池をはじめ周辺の河川の黒川及び巨勢川で8カ所の調査地点を設定し、採取してきた水に対してバックテスト、電気伝導度、PHなどの試験を実施し、前年度に実施した結果との対比を行い、経年変化を調査した。</p>                            |     |
|                 | <p>(実施事業効果)</p> <p>懇談会に参加されている地区住民の方を中心に18名の参加があり、4つの班に分かれて採水した後、前年調査した時との相違等を評価しながら各テストを行った。前年とあまり変わらない地点もあったものの、大きく数値が悪くなった地点もあり、その原因等を全員で考え地区全体に呼びかけて今後の環境改善目標にすることを結論づけた。</p> <p>残念なことに前年は小学生の参加があったが、今年は大人だけの参加に終わり今後は、改めて小学校等への活動参加を呼びかけて行く必要があることを痛感した。これからの世代の担い手にもっとアピールする必要があると思う。若干時間が余ったので、前年植えたチューリップ畑の除草作業も行った。</p> |     |
| 6 参加内訳          | 総人数   | 18名 |
|                 | (1)主催者参加  | 5名  |
|                 | (2)日本人参加((1)を除く)  | 13名 |
|                 | (3)外国人参加((1)を除く)  | 0名  |
| 7 今後の方針         | <p>平成20年度から地区住民が中心となって、巨勢川調整池利活用を検討していく新しい組織「仮称:徐福・湿原の森づくり会」が立ち上げられることになりつつある。</p> <p>今後は、2年間に渡り当地区の水質調査を実施してきた成果を引き続き積み重ねて行かれるように助言、協力していく所存だ。</p>   |     |

巨勢川調整池の水質調査



巨勢川調整池の水質調査

